

2011年(平成23年)1月21日(金曜日) (2)

# 黒潮発電プロ提案

## 建設費最大 事業の成立性確認

### NPOの産学官研究会

海に関する調査研究を  
展開するNPO「黒潮マ  
ン21」の産学官研究会が、  
黒潮を利用した発電開発  
プロジェクトを提案し  
た。黒潮の強い潮流エネ  
ルギーと、海の表面と深  
海の温度差を利用した発  
電プロジェクトで、多く  
の装置で構成されるフ  
ームタイプを高知県の足  
摺沖に設置した場合、  
年間0.34ギガワットの発電  
量が期待できる。建設費  
は22290億円、4090

億円と試算され、発電コ  
ストと比較すると従来の  
エネルギー事業としての  
可能性が確認できたとい  
う。

プロジェクトを提案し  
たのは「海洋エネルギー  
研究会」。10年5月から  
二つの小委員会を設けし  
て調査研究を重ねてきた  
が、成果がまとまってい  
なから19日に合同会議を  
開いた。調査研究では、  
▽神威西北▽トカラ列島  
周辺▽足摺沖▽瀬戸沖

▽三宅島沖の4海域を  
調査して発電開発を分  
析。世界最大級と認めら  
れる黒潮の潮流エネルギー  
を把握するとともに、6  
海域の潮流と深層の海水  
温度差も調べた。

海洋温度差発電装置  
(10万kW)、1基と潮流  
発電装置(2000kW)を  
20基で構成し、送電塔を  
共有するファームタイプ  
の場合、製作費を含む建  
設費は22290億円、40  
90億円程度と試算され

た。発電が最大の目標  
に設定した場合、18万  
世帯に相当する年間0.3  
4ギガワットの発電量が  
期待できる。建設費は  
22290億円、4090

億円と試算され、発電  
コストと比較すると従  
来のエネルギー事業  
としての可能性が確認  
できたという。1、2、3

た。発電が最大の目標  
に設定した場合、18万  
世帯に相当する年間0.3  
4ギガワットの発電量が  
期待できる。建設費は  
22290億円、4090

た。発電が最大の目標  
に設定した場合、18万  
世帯に相当する年間0.3  
4ギガワットの発電量が  
期待できる。建設費は  
22290億円、4090

た。発電が最大の目標  
に設定した場合、18万  
世帯に相当する年間0.3  
4ギガワットの発電量が  
期待できる。建設費は  
22290億円、4090

たりの発電コストは12・  
4〜22・1円と、風力や  
太陽光による発電コスト  
と大差はなかった。  
研究会では、3月に  
も報告書を作成し、海洋  
政策を担当する内閣府な  
どに、黒潮を利用した複  
合発電プロジェクトの  
可能性をアピールする考  
え。さらに建設コストの  
削減などの検討を求め、  
実証実験に着手したいと  
している。